

会 議 録

会議の名称	第3回川越市オーバーツーリズム対策懇談会
開催日時	令和7年3月27日（木） 16時00分 開会 ・ 17時30分 閉会
開催場所	7AB会議室
出席者	別紙「出席者一覧」参照
事務局（観光課）職員氏名	課長 榎本 学、副課長 関根 英昭、館長 山口 淳 副主幹 徳田 将史、主査 佐藤 官、主査 新井 努 主任 中村 翔大、主事 小林 祥大、主事 浅野 佳世
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 （1）令和6年度川越市オーバーツーリズム対策事業の実績について （2）令和7年度川越市オーバーツーリズム対策事業の計画案について 4 その他 5 閉会
配布資料	次第 出席者名簿 会場図 資料1：川越市オーバーツーリズム対策事業

議 事 の 経 過
議題・発言内容・決定事項
議事は、会議次第に沿って進行された。 討議の概要は、以下のとおり。 議題 以下について説明 ・資料は、令和6年度実施事業の報告及び令和7年度実施予定事業の概要を示したものであること。 ・懇談会は、来年度も継続しオーバーツーリズム対策を地域で進めていきたいということ。 ・令和7年度事業は、本日の懇談会での意見も踏まえ内容をより磨き上げていきたいということ。 資料1「川越市オーバーツーリズム対策事業」を用いて説明 ～以下、質疑応答～ （委員）「ごみポイ捨て防止対策の事業の成果として、川越クリーンアップ委員会のことが記載されていないのはなぜでしょうか。」 （事務局・関係課）「川越クリーンアップ委員会が設置者となり、鍛冶町広場にスマートゴミ箱が設置されたことについて、記載が抜けておりました。」 （委員）「持続可能な観光行政の推進として、商店街が結束して発足した川越クリーンアップ委員会は大きな実績であり、前進であると考えます。」 （事務局・関係課）「川越クリーンアップ委員会について説明させていただきます。スマートゴミ箱を設置するにあたり、川越市の7つの商店街と協議を行いました。一番街を中心に観光のゴミが出る中、その周辺の路地などにゴミが捨てられる状況がございました。ゴミ箱の設置やその後の管理等のゴミポイ捨て防止対策活動を進めるため、7つの商店街が結束して川越クリーンアップ委員会が立ち上がりました。川越クリーンアップ委員会の活動につきましては、継続してPRしてまいりたいと考えています。」 （事務局・関係課）「これまでも、それぞれの商店街で独自の取り組みを行っていただいていたと思います。そうした中で、今回、商店街の皆様が結束し、取り組みを行っていただいたという点は、非常に評価すべきものです。このよ

うな取り組みは、私たちも懇談会の中で情報共有を進めるべきです。また、対外的にも発信していくことで、マナーの向上が図られるでしょうし、その他の面でも良い効果が現れてくると思っています。その点については、しっかりと意識し、声を大にして進めていきたいと考えています。」

（委員）「やはり行政と民間が一緒に考えながら取り組む機会が実際には少ないと思います。そういう意味で、このような機会を提供できるのではないかと考えています。川越市（観光課）からは、川越クリーンアップ委員会に関わっていただけるとのお約束をいただきました。今後も民間との架け橋として、そういった連携ができれば、より具体的な活動が進められるのではないかと考えています。」

（委員）「マナー啓発動画でも触れられていますが、喫煙は決められた場所で行うべきという点があります。外にいと、よく「どこで喫煙すればいいのか」と質問されることが多いです。結局、私が伝えられる場所は、ファミリーマート札の辻店や、市役所方面に曲がった場所にあるたばこ屋ぐらいしかありません。ゴミ箱の設置やマナー啓発など、さまざまな取り組みを行っていますが、喫煙スペースの設置に関しては、川越市では全く動きがないのが現状です。公共の場所や施設では、健康増進法によって喫煙が禁止されているため、高いハードルを感じています。しかし、喫煙専用の箱を設置し、その中に空気清浄機を入れるという方法も一案として考えられるのではないかと考えています。近場にそういったものが設置できれば良いのではないかと感じています。」

（事務局・関係課）「J T等にも、提案や意見を伺いたいと考えています。様々な話の中で、打開策や良案が出てくることを期待しています。少しずつでも進めていきたいと思っています。」

（委員）「適切な交通規制のあり方について、以前の社会実験から約16年が経過しました。その中での第一歩として、歩行者天国を5月3日から5日の3日間、11月の3日間に実施していただけることに非常に感謝しています。しかし、これからどうつなげていくかが重要だと思います。混雑状況を見ていると、5月と11月の3日間だけでは到底足りないと感じています。近隣住民との話し合いを経て、丁寧に説明することが重要だと思います。川越市としては、今後どのような着地点を考えているのかお聞きしたいと思います。北から南への一方通行という案が10数年前に出されたかと思いますが、それに向かって進むのか、あるいは別の形で何かを模索するのか、ぜひ教えてください。」

（事務局・関係課）「川越市として今後、歩行者天国を経て目指していく方向についてお話ししたいと思います。まさにそのために、データを収集させてい

ただ、おっしゃっていただいた通り、16年前に歩行者天国と一方通行の交通社会実験を実施しました。その際、交通渋滞が発生し、地元の方からは心配の声を多数いただきました。このため、具体的な検討が一時止まっていましたが、今の状況を踏まえると、何らかの対策が必要であるという認識が地域の方々の中で少しずつ生まれてきています。アンケート結果によると、交通規制の影響を直接受ける地域の方々は、歩行者天国の実施日数をできるだけ少なくしたいとの傾向も見られました。このため、交通シミュレーションやアンケートを行いました。あくまで机上の結果に過ぎません。そこで今回は実験として実際に試行した結果、住民の方々からの感想が変わる可能性についても考慮しています。市としては、地域に本当に必要な交通対策を見出すために、あえて着地点を決めずに皆様とともに考えていきたいと考えています。その結果については、こちらの懇談会でも共有し、皆様のご意見をぜひいただければと思います。」

（委員）「今回で終わらず、何年かけてでもこの問題を解決していただきたいと思います。」

（委員）「中央通り線の無電中化に関する調査についてですが、令和7年度の実施予定で、道路予備設計と記載されています。例えば、私たちの商店街は8年前にアーケードを全部取り払って国の補助金を受けました。しかし、中央通り2丁目はまだアーケードがそのまま残っています。8年前に県の事務所で説明を受けた際、県道事務所の地図にはアーケードは含まれていませんでした。つまり、民間が勝手に設置したものなのです。そのため、県の補助金で取得したのに関しては、設置している方々は自分達で取り付けたので、その補助金を受け取る必要はないという主張をしています。しかし、それは少し違うと思いますので、皆で意見をまとめる必要があります。そのため、川越市全体の意見が統一されるべきだと思います。同じ考え方を持たない限り、これからさまざまな問題が出てくるでしょう。立て看板の問題や、自転車の放置等も含めて、皆様にお手伝いいただけると大変助かります。」

（事務局・関係課）「様々な過去の経緯も含めて課題があるというふうに認識しています。やはり無電柱化というと、大規模な工事が伴います。逆に言うと、それをきっかけに地域のあり方を見直すチャンスにもなると考えています。ですので、道路については市だけで考えるのではなく、地域の皆様やお住まいの方、商売をされている方々の意見を踏まえ、皆様が地域として誇りに思えるような道路空間を確保することが地域の賑わいにも繋がると思います。今いただいたご意見を踏まえ、今後の事業化の検討についても、しっかりと進めさせていただきたいと考えています。」

(委員)「令和7年度のスケジュール案について、令和8年度まで懇談会を継続するという内容が記載されています。今後の懇談会、中長期的な予定について、どのように考えているのか伺います。また、オーバーツーリズムのテーマに関して、今後それを超えたテーマで検討していく予定があるのかについてもお聞きできればと思います。」

(事務局・関係課)「基本的には、オーバーツーリズムに関する懇談会を来年度、令和8年度、その先も続けていきたいと考えています。その都度、さまざまな課題が出てくると思いますので、課題が浮かび上がった段階で、懇談会での協議を行うかどうかを決めていきます。また、その事業をどのように広げていくかについても、柔軟に考えていきたいと思っています。」

(委員)「テイクアウト商品を購入するための整理券システムについては、なかなか取り扱ってくれるところがなかったと思います。実際には購入前に並んでいる人と、購入後にその場に滞留している人がいるという現状があります。各商店街に対してではなく、各店舗に直接意見を聞いて、次にどうするのか、どうしたらいいのかを把握していくといいと思います。ぜひ、これまで積み上げてきた時間を無駄にすることなく、今後数年間継続して取り組んでいただきたいと思います。

最後に、スケジュールについて、個別協議が6月から始まるとなっています。既に進行していることも含めて記載していただけると良いと思います。」

(事務局・関係課)「整理券システムについては、私たちにとって非常に苦労した事業の一つであり、なかなか実現に至らなかったという現実があります。そのため、事業の必要性について、商店街の皆様や該当する店舗と話し合いながら今後の事業を進めていきたいと考えています。」

(委員)「懇談会は非常に貴重な時間でして、実際にはこうした機会が少ないのではないかと感じます。川越市と民間団体や商店街が協議する場がなかなか設けられていないように思います。ですので、この場は大変貴重だと考えています。やはり、距離感がある中で行政の方が一生懸命に考えて進められる事業に対し、「意見をください」と言われても、実際には一緒に協力して進める姿勢が最も効果的で、進行しやすいのではないかと思います。どの事業に関しても、こうした態度が大切だと思います。特に川越の人達は、自分の意見を言いたいと思っている方が多いのではないかと感じます。その意見が必ずしも良いものであるとは限りませんが、一緒になって事業を構築していくことが重要だと思います。今後について、懇談会の構成メンバーを変更する予定はありのでしょうか。」

（事務局・関係課）「構成メンバーについて、臨機応変に対応していきたいと思っています。松本委員の中で、委員に入れてほしい方や現時点でのご意見はありますでしょうか。」

（委員）「特に今はありません。また、全ての商店街が参加すべきなのかどうかも考えなければなりません。商店街の意見が重視されるのもどうかと感じました。川越クリーンアップ委員会が商店街としてまとまっているのであれば、その代表者が参加するのも良いのではないかと思います。そうすれば、枠が空くため、市民の意見を入れることができるような工夫も可能になると考えます。バランスをもう少し見ていただいた方が良いのではないかというのが、私の個人的な意見です。」

（事務局・関係課）「只今のご意見について、事務局で検討させていただければと思います。」

（委員）「商店街や店舗運営者としての目線ではなく、観光客等からお聞きした声について、共有いたします。小江戸川越観光デジタルマップについて、まだ十分に周知されておらず、店舗に関する情報が不足していると感じます。登録してもらう方法が気になります。次に、ハローサイクリングについて、市の運営になってから、利用したいのに自転車がないことが多い状態や、返却時にシステムを介さないと課金され続けるという状態になる人がいます。便利に利用していたにも関わらず、ステーションが満車で返却できず、元の場所に戻すという方もいます。このような状況を解消し、もっとみんなが使いやすいサービスを提供していただけると嬉しいです。」

また、懇談会メンバーの中に、子ども関係やPTAの方が含まれるといいと思います。子供の安全を守りたいという観点から、観光道路で観光地ですが、地域住民の居住地でもあるため、子どもが車に引かれてしまわないか心配です。商店街としては、話し合いの場に参加して協力したいですが、個人で運営されている方が多く、参加すると商売が止まってしまうため、一人で運営している店舗は参加できないこともあります。また、アルバイトを雇うことができる等の金銭面で使える情報があれば早めに教えていただけると助かります。これらの取り組みが繋がり、良い街になることへの期待がとても膨らみます。何かできることがあれば、協力していきたいと思っています。」

（事務局・関係課）「都市計画部として、ハローサイクリングについてお話ししますと、実際には市が運営しているわけではなく、事業者と協定書を結び、市の負担なく運営している状況です。しかし、置き場所がないといった問題も把握しましたので、事業者の方に市からお伝えいたします。また、懇談会委員

に子ども関係やPTAを加えるという意見は非常に良いと思いました。オーバーツーリズムといえば観光客対策の側面が強いですが、川越の特徴として、地域に住まわれる方々や住宅街も重要なエリアだと認識しています。歩行環境を考えると、観光客だけでなく地域住民や子供、高齢者の方々も日常生活で歩いていると思います。皆様が暮らしやすい街を実現するために道路環境は非常に大事だと考えています。地域の方の声をより取り入れられるように、懇談会のあり方についても検討したいと考えています。」

（事務局・関係課）「観光課からデジタルマップについてお答えいたします。主要な観光スポットをはじめ、できる限りさまざまな情報を掲載しています。しかし、ご質問にあった店舗の情報に関しましては、条件を設定させていただいています。具体的には、「旅先納税」という仕組みがあり、観光客を対象としたふるさと納税とお考え下さい。川越観光に訪れてから、スマートフォンを用いて納税をしていただくことで、ふるさと納税でいう返礼品のような形でクーポンが発行されます。さらに、ポイントが付与され、そのポイントを市内の店舗でご利用いただける仕組みになっています。現在、登録されているのはe旅ギフト（旅先納税）という事業の加盟店であり、行政と連携している店舗に絞って情報を提供している状況です。」

（委員）「今回の報告を受けて、2点質問させていただきたいと思います。まず1点目は、全体感についてです。観光客の状況についてお尋ねしたいと思います。商店街の皆様や地元の方々のご協力がある中での成果だと思いますが、現在、外国人観光客は約10%弱増加している状況です。これからも増加が予想される中で、今回の事業で外国人観光客に対する影響を考慮した対策は設けられているのでしょうか。実際に、外国人の方々は文化が異なるため、ごみのポイ捨て防止対策が重要であると考えます。日本人以上に、ルールを守っていただくための啓発が必要です。この点について何らかの対策が検討されているかお聞かせいただきたいと思います。もう1点は、来年度の補助金に関することです。国の補助金の関係も含め、今年度予算と来年度の計画について伺います。今年度と同規模でのオーバーツーリズム対策を考えているのか、それとも今年度のスマートゴミ箱や整理券システム等の購入が無い分、これまで通りソフト事業を続けるのかなど、分かる範囲でお教えいただければと思います。」

（事務局・関係課）「まず1点目は、外国人に対して影響が出そうな対策に関するものです。我々が実施した外国人向けの対策として、動画を通じたマナー対策の事業があります。こちらについては、外国人の方に動画を視聴していただき、マナーを守っていただくことを考えています。そういった点を意識して、事業設計を行いました。次に、来年度の予算についてですが、現段階での見通

しとしては、今年度の事業の額よりも縮小する見込みです。しかし、今年度実施した事業を継続していくために予算要求を行っており、令和7年度に必要な事業については国に補助金の申請をしている状況です。」

（委員）「外国人観光客に関するマナー啓発について、具体的に、旅行会社や他市の観光協会、外国の旅行会社に対して事前に働きかけを行っているのでしょうか。」

（事務局・関係課）「先程、ご覧いただいたマナー啓発の動画に関して、タイ、韓国、台湾のお客様を中心とするインバウンドの観光客をお連れしてくれるバス事業者に対して提供し、マナーに関する情報を旅行前、川越観光をする直前に告知をしていただくよう依頼しています。」

（事務局・関係課）「今回の補助金の額について、交通関係で言いますと、令和6年度にナンバープレート調査を実施しましたので、令和7年度では、それを踏まえて実験的な取り組みを進める段階に入ります。したがって、規模が縮小することが必ずしも取り組みの縮小を意味するわけではなく、次のステップに進むための準備が進んでいると認識しています。」

4 その他

（事務局・関係課）「令和7年度の懇談会については、別途通知させていただきます。」

（事務局・関係課）「令和7年5月3日午前11時から午後5時まで、一番街周辺で歩行者天国を試行的に実施します。この件については、関係者にチラシを送付し周知を図りますので、ご協力をお願いいたします。また、公共交通機関の利用を促す周知にもご協力いただければ幸いです。」

以上。